

「やる気次第で未知の可能性を秘めた職業」

古岩 樹（25歳） 新規学卒
（宇和島市）



1 就農の動機・理由

祖父と父親が農業経営を行っており、幼い頃から農業は常に身近な職業だった。大学時代にアルバイト経験をした中で自分が作った物を販売する喜びを知った。そこで将来を考えたとき、農業のことが真っ先に頭に浮かび、農業を職業とすることを決めた。

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (令和6年)	現在の経営 (令和7年)	将来の経営 (令和10年)
労働力	男1人(本人)	男1人(本人)	男1人(本人) パート2人
経営耕地	畑 15a	畑 15a	畑 20a
経営内容	施設いちご(高設) 15a	施設いちご(高設) 15a	施設いちご(高設) 20a

○農業用施設

農業用倉庫 1棟
SRHハウス 3連棟(1,000 m²)
APハウス 2連棟(500 m²)
いちご高設システム

○主要農業機械

動噴 1台
軽トラック 1台
草刈機 1台
暖房機 2台
CO₂発生装置 1台

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 愛媛県宇和島市
職歴 なし
就農研修歴
愛媛県農林水産研究所
1年間(R5.6.1~R6.5.31)
就農年月 令和6年6月

(2) 就農時の思い

農地の確保やハウスの建設等については、県農林水産研究所での研修と並行して準備をすすめることができた。研修中の様々な経験のおかげで、農業技術の習得だけでなく農業関係者との人脈を形成することができ、不安なく楽しみに就農をスタートすることができた。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

1年間、県農林水産研究所で研修を行い、施設いちごの栽培技術を習得し

た。

(2) 資金の準備

農業次世代人材投資資金（就農準備資金）を活用した。

(3) 農地・住宅の確保

農地は、親族からの所有権取得や使用貸借により確保した。

住宅は、実家で家族と同居している。

(4) その他苦労したこと

15a の施設いちごを労働力 1 人で管理するに当たって、当初は作業時間の使い方（労働配分）に苦労した。

5 農業経営の特徴

施設いちごの高品質多収量を目指し、リアルタイム低コスト環境計測機器を導入して、測定した温度や湿度、飽差、二酸化炭素濃度のデータに基づき、栽培の最適化を図っている。

6 これからの夢

自身が先進モデルとなる経営を実践し、「農業・施設栽培をやりたい！」と思う人達が増えるよう、日々努力していきたい。

7 成功したキーポイント

県農林水産研究所における 1 年間の研修の中で、県内外のいちご農家さん達の実際の声聴き、多くの知識を得ることができたこと。

また、就農してからも農業セミナーや

交流会などに積極的に参加する中で、一番大事な販路も開拓することができたこと。

8 就農を目指す方へのアドバイス

農業は、自分次第で結果が決まる職業だと思いますので、大いにやりがいがありますし、経営者としての責任もあるので楽しいです。

○ 指導機関からのひとこと

古岩さんは、県の施設で研修されている時から真面目で熱心な研修生とお聞きしていました。

就農後もその実直な人柄から、地元いちご生産部会員からの信頼も厚く、既に地域に必要不可欠な存在になっておられます。今後さらなるご活躍を期待しております。

執筆機関

南予地方局農業振興課地域農業育成室
電話番号 0895-28-6117



いちごの収穫作業